



みくにだより

「ぼくが植えた、チューリップの球根だよ！」

園長 細井 典子

年長の皆さんがチューリップの球根を花壇やプランターに植えてくれたのは『秋』でした。まだ、いちょうの木の葉が緑色で、今年はなかなか黄色に色づかないなあと思っていた頃でした。夏には、いんげん豆を育てましたね。この時「種」の存在を知りました。ピンク色のいんげんの「種」をまくという経験をしました。芽が出て、白い花が咲いて、いんげんの実がなりましたね。覚えているかしら？

次はサフランの水栽培を経験しました。初めて「球根」を手を持ちましたね。コップのような容器の中に水を入れて、その上にそおとサフランの球根をのせて暗い箱の中にしばらくの間入れておきました。さあ、サフランの球根はどうなったのでしょうか？気になって仕方がない年長さん達は毎日、毎日箱の中の球根の様子を見ていました。すると球根の水についていた下の方から、くるくるした根っこが出てきたのです。「根」が出て、「芽」が出て、「葉」が出て「つぼみ」になり、紫色の素敵な花が咲いたとき、大喜びしていましたね。「私のサフランはまだ咲かないの」と寂しそうに話をしていた、ゆきちゃん。次の日、「先生！やっと私のサフラン咲いたよ。紫の中に赤と黄色のこれ、何？」「めしべとおしべよ！」「あっ！本で見たことあるよ！」

そして「秋」。チューリップの球根を見て「玉ねぎみたい」。茶色くって、丸くて、野菜の玉ねぎみたい。「どうしてこの球根から、あのきれいなチューリップが咲くのかな？」「何色の花が咲くのかな？」そして寒い寒い「冬」ですが、プランターを見るとチューリップの「芽」が出ています。もう春の準備をしているのですね。「咲いた、咲いたチューリップの花が、並んだ並んだ赤、白、黄色…」新入生の赤バッジの皆さんが期待に胸ふくらませて、先生や友だちと歌う姿が目には浮かびます。

年長のこうすけ君とゆうき君が言っていました。そのうち年中や年少の子も集まってきました。「ぼくたちが植えたチューリップの球根なんだよ。この花が咲く時は、僕たちは卒業して、いないかもしれないけど寂しくないよ。だって黄色バッジに、新しい紫バッジになってもらうからね。ぼくたちは小学校へ行くからね。勉強するんだ。学校だからね。ランドセル買ってもらったよ。それに鉛筆と消しゴムと筆箱。それに新しい赤バッジのお世話たのむよ。この前来た時、ぼくのねんどを貸してあげたら笑ってたよ。きつとねんどが大好きなんだよ。ねんど貸してあげてね。じゃあ、先に小学校へ行くけど、また会おうね！」その言葉をじっと聞いていた年中のりん君が言いました。

「ぼくは、紫バッジのこうすけ君になりたい！」「ぼくも！」

あこがれの年長のお兄さん、お姉さん、今まで、お世話をしてくださってありがとうございました。そしてチューリップのお花もありがとう！

『給食ウォッチング』

毎月 1 回、みくに学園とミールケアの方とで給食会議を開いています。議題としては、食器の準備の仕方、野菜の切り方、献立の内容、食材の残量等々について話し合われます。

毎年三学期になるとお子様の成長に伴い残量が少なくなり、ミールケアの方から、「たくさん食べてくれて作り甲斐があるわ」とほめてもらっています。メニューは特に『行事』の時に工夫されていて、お子様たちは楽しみにしています。先日の節分の時には、恵方巻や鬼ハンバーグ、角は三角に切った人参、髪の毛はスパゲティと盛り付けも大喜びでしたが、どれから食べようかと考えながら食べる姿が見られました。

作っている方に感謝しながら毎日楽しくいただいています。